

高校公民プリント（過去問類似）
西洋の近現代思想 No.8

名前

得点

/9

問1 16世紀フランスの思想家であり、宗教戦争による混乱と殺戮を目の当たりにする中で、独善的な独断や偏見を排し、自己の理性の限界を自覚することを説いた人物は誰か。彼は「私は何を知っているか」（ク・セ・ジュ）という問いかけを通じて、謙虚に自己吟味を行う懐疑主義の立場を示し、のちのモラリストの先駆者となった。（2017年 全国公立入試 類似）

1. ラ・ブリュイエール 2. モンテーニュ 3. パスカル 4. ラ・ロシュフコー

問2 著書『自由論』において、他者に実害を及ぼす恐れのある行為のみが規制の対象となるべきであり、自己の安全や道徳的善行の強制を理由に個人の自由を制限することは許されないと主張した、19世紀イギリスの功利主義思想家は誰か。（2010年 全国公立入試 類似）

1. ハーバート・スペンサー 2. ジョン・スチュアート・ミル 3. トーマス・ヒル・グリーン 4. トーマス・ロバート・マルサス

問3 キリスト教的な道徳を弱者の怨恨（ルサンチマン）に基づく「奴隷道徳」であると批判し、伝統的な価値観の崩壊（ニヒリズム）を乗り越えるために、自らの生を能動的に肯定する「超人」の思想を説いたドイツの思想家は誰か。（2019年 全国公立入試 類似）

1. サルトル 2. ハイデガー 3. ニーチェ 4. ヤスパース

問4 デカルトの物心二元論やスピノザの一元論に対し、世界の根源的な実体は無限に存在する「モノド（単子）」であるとし、それらは互いに影響を及ぼし合わないが、神によってあらかじめ調和が保たれるように設定されているという「予定調和説」を唱えたドイツの哲学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. スピノザ 2. マルブランシュ 3. デカルト 4. ライプニッツ

問5 国家が成立する前の自然状態を、各人が自己保存のために互いに争い合う混乱した状況であると捉え、これを避けるために人々が契約を結んで自然権を強力な主権者に譲渡することで国家が設立されると説いた、著書『リヴァイアサン』で知られるイギリスの思想家は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. ルソー 2. ホブズ 3. ロック 4. スピノザ

問6 歴史の進歩や普遍的な社会正義を掲げて未来の理想社会を設計しようとする立場に対し、そうした全体的なシステムを批判し、目の前で苦しんでいる具体的な他者からの呼びかけに直接応答することに倫理の根源を見出す思想がある。このような、自己の枠組みを超えて迫ってくる「他者の顔」に対する無限の責任を説き、近代の主體的自己中心性を批判した現代の哲学者は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. フッサール 2. ハイデガー 3. レヴィナス 4. ドゥルーズ

問7 学校で学んだ従来の学問に確実な基礎がないと疑問を抱いたフランスの哲学者が、学校を去って旅に出て、様々な身分の人々との交わりや経験を通じて真理を探究しようとした。この探究の対象を、彼は著書『方法序説』の中で何と表現したか。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 精神と身体二元論 2. 世間という大きな書物 3. 明晰かつ判明な観念 4. 我思う、ゆえに我あり

問8 ルネサンス期のイタリアにおいて、政治を宗教や道徳から切り離し、人間の現実のありようを踏まえた客観的な統治の技術として捉えた思想家は誰か。彼は、国家の維持と秩序のために、君主はライオンのような強さと狐のような賢さを兼ね備えて統治を行うべきであると主張した。（2019年 全国公立入試 類似）

1. エラスムス 2. ペトラルカ 3. マキャヴェリ 4. モンテーニュ

問9 イギリスの思想家ロックが1689年に公刊し、政府が市民の信託に反して権力を濫用し自然権を侵害した場合には、市民は政府に対して抵抗し新たな政府を設立する権利を持つという思想を展開して、のちのアメリカ独立革命などに大きな影響を与えた主著は何か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 市民政府二論 2. 実践理性批判 3. 代議制統治論 4. 社会契約論

答え合わせ・解説 No.8

問1	答え 2 モンテーニュ	16世紀のフランスでは、カトリックとプロテスタントの対立によるユグノー戦争が勃発し、人々は自らの信仰の絶対性を主張して激しく争った。こうした悲惨な現実を背景に、人間が持つ理性の不完全さを自覚し、「私は何を知っているか」(ク・セ・ジュ)と問いかけることで、独断や偏見から脱して謙虚に自己吟味を行う懐疑主義が唱えられた。主著『エッセー(随想録)』に示されたこの思想は、のちのパスカルなどのモラリストに大きな影響を与えた。
問2	答え 2 ジョン・スチュアート・ミル	功利主義の思想を発展させたイギリスの哲学者であり、著書『自由論』の中で「他者危害の原則」を提唱した。彼は、個人の自由に対する社会や国家の介入が正当化されるのは他者への危害を防止する場合のみであるとし、個人の自律性を重視する質的功利主義の立場をとった。
問3	答え 3 ニーチェ	19世紀後半のドイツの哲学者であるニーチェは、「神は死んだ」と宣言し、従来からのキリスト教的価値観が崩壊したニヒリズムの時代を分析した。彼は、弱者が強者に対して抱く怨恨(ルサンチマン)から生じた道徳を「奴隷道徳」と呼び、これを超克して、永劫回帰の運命を愛し、自ら新たな価値を創造する「超人」となることを目指すべきだと主張した。
問4	答え 4 ライプニッツ	デカルトが精神と物質の二元論を唱え、スピノザが唯一の実体としての神を認める汎神論を唱えたのに対し、ライプニッツは無数の実体である「モノイド」を想定した。モノイドは互いに独立しているが、神のあらかじめ定めた調和(予定調和説)によって全体として秩序が保たれていると考えた。
問5	答え 2 ホッブズ	自然権を自己保存の権利とし、国家のない自然状態では人々が互いに争う「万人の万人に対する闘争」に陥ると考えた。この混乱を避けるために、人々は契約を結んで自然権を主権者に譲渡し、国家を設立すると説明した。この思想は、絶対王政を擁護する論理としても利用された。
問6	答え 3 レヴィナス	全体性(普遍的なシステムや歴史の進歩)が他者を排除・抑圧することを批判し、自己の理解を超えた絶対的な他者(「顔」)からの呼びかけに対して、受動的に応答する責任こそが倫理の出発点であると主張した。この思想は、普遍的な正義の設計図を疑い、今ここにある具体的な他者の苦しみに向き合う実践を重視する立場と深く結びついている。
問7	答え 2 世間という大きな書物	デカルトは、学校で学んだスコラ哲学などの学問に確実な基礎がないと疑問を抱き、学校を去って「世間という大きな書物」を学び、自己の理性を頼りに確実な真理を探究した。これがのちに「方法的懐疑」を経て「私は考える、ゆえに私はある」という哲学の第一原理の発見へとつながった。
問8	答え 3 マキャヴェリ	15世紀から16世紀にかけてのイタリアの思想家である彼は、分裂状態にあった祖国の統一を願い、現実主義的な政治思想を展開した。彼は、政治をキリスト教的な道徳や倫理から独立させ、国家の維持・強化のためには非道徳的な手段も辞さない君主のあり方を説いた。この思想はのちに「マキャヴェリズム」と呼ばれ、近代政治学の先駆となった。
問9	答え 1 市民政府二論	ロックは名誉革命を擁護する立場から『市民政府二論』(『統治二論』)を著し、社会契約説に基づき、政府が市民の信託に反して権力を濫用した場合には、市民は抵抗権(革命権)を行使して新たな政府を樹立できると主張した。この著作はアメリカ独立宣言などに多大な影響を与えた。